

## 2025年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2025年2月13日

上場会社名 宝ホールディングス株式会社  
 コード番号 2531 URL <https://www.takara.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 木村 睦  
 問合せ先責任者 (役職名) 広報・IR部長 (氏名) 宇佐美 昌和  
 配当支払開始予定日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
 TEL 075-241-5124

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年3月期第3四半期の連結業績(2024年4月1日～2024年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	266,935	5.3	14,909	16.1	16,066	14.6	13,002	6.7
2024年3月期第3四半期	253,618	4.5	17,779	49.0	18,820	47.0	13,937	27.0

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 9,932百万円 (70.9%) 2024年3月期第3四半期 34,169百万円 (25.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	66.59	
2024年3月期第3四半期	70.55	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	458,614	284,229	50.7
2024年3月期	437,468	280,465	52.3

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 232,648百万円 2024年3月期 228,665百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期				29.00	29.00
2025年3月期					
2025年3月期(予想)				31.00	31.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	362,000	6.7	21,200	4.7	22,300	4.4	15,900	1.7	81.43

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有

新規 1 社 (社名) Kagerer & Co. GmbH 、 除外 社 (社名)

(注) 詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(企業結合等関係)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更に関する注記)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年3月期3Q	197,252,043 株	2024年3月期	197,252,043 株
2025年3月期3Q	1,995,917 株	2024年3月期	1,995,688 株
2025年3月期3Q	195,256,263 株	2024年3月期3Q	197,565,560 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 有(任意)

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10
(企業結合等関係)	10
独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書	12

## ○ 第3四半期決算短信補足資料

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は266,935百万円（前年同期比5.3%増）、売上総利益は87,523百万円（同3.7%増）、販売費及び一般管理費は72,614百万円（同9.0%増）、営業利益は14,909百万円（同16.1%減）、経常利益は16,066百万円（同14.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、固定資産や投資有価証券の売却による特別利益の増加などにより13,002百万円（同6.7%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### [宝酒造]

当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同期と比べて、本みりんは増加しましたが、焼酎や清酒などは減少し、ソフトアルコール飲料は前年同期並みとなりました。

以上の結果、宝酒造の売上高は95,131百万円（前年同期比2.5%減）となりました。売上原価は、売上高の減少に伴い減少しましたが、原材料価格の上昇の影響などにより70,510百万円（同1.3%減）となり、売上総利益は24,620百万円（同6.0%減）となりました。販売費及び一般管理費は、運送費や広告宣伝費などが増加し19,270百万円（同0.3%増）となり、営業利益は5,350百万円（同23.3%減）となりました。

#### [宝酒造インターナショナルグループ]

当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同期と比べて、ウイスキーが引き続き増加し、清酒なども増加いたしましたので、海外酒類事業の売上高は増加いたしました。海外日本食材卸事業の売上高も、米国や欧州などの個人消費の減速の影響を受けたものの、引き続き新規顧客の獲得や顧客ニーズに即した商品調達などに取り組んだことなどにより増加いたしました。

以上の結果、宝酒造インターナショナルグループの売上高は133,316百万円（前年同期比13.6%増）となりました。売上原価は、売上高の増加に伴い増加し89,836百万円（同12.3%増）となり、売上総利益は43,480百万円（同16.4%増）となりました。販売費及び一般管理費は、人件費などが増加し34,107百万円（同20.0%増）となり、営業利益は9,372百万円（同4.9%増）となりました。

#### [タカラバイオグループ]

当第3四半期連結累計期間の売上高は、新型コロナウイルス検査関連製品の販売減少、ライフサイエンス研究市場の低迷等により減少いたしました。

以上の結果、タカラバイオグループの売上高は29,282百万円（前年同期比1.5%減）となりました。売上原価は、相対的に利益率の高い検査関連試薬の減少や売上構成の変化の影響などにより12,912百万円（同10.4%増）となり、売上総利益は16,369百万円（同9.3%減）となりました。販売費及び一般管理費は17,843百万円（同0.8%増）となり、営業損失は1,473百万円（前年同期は営業利益336百万円）となりました。

#### [その他]

当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同期と比べて、ワイン輸入販売などが増加し23,963百万円（前年同期比2.8%増）となりました。売上原価は20,273百万円（同1.6%増）となり、売上総利益は3,689百万円（同10.0%増）となりました。販売費及び一般管理費は、人件費などが増加し1,491百万円（同4.1%増）となり、営業利益は2,198百万円（同14.3%増）となりました。

## 品種別販売実績

セグメントの名称	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	対前年 増減率
品種	金額 (百万円)	金額 (百万円)	(%)
焼酎	27,188	25,305	△6.9
清酒	9,349	8,688	△7.1
ソフトアルコール飲料	33,089	33,105	0.0
その他酒類	4,244	4,080	△3.9
本みりん	7,834	7,942	1.4
その他調味料	7,181	7,329	2.1
原料用アルコール等	8,730	8,680	△0.6
宝酒造	97,619	95,131	△2.5
海外酒類	15,102	17,133	13.4
海外日本食材卸	104,019	118,033	13.5
その他	231	558	141.5
グループ内連結消去	△1,974	△2,407	—
宝酒造インターナショナルグループ	117,378	133,316	13.6
試薬	22,593	22,424	△0.8
機器	638	644	1.0
受託	4,369	3,496	△20.0
遺伝子医療	2,133	2,716	27.3
タカラバイオグループ	29,734	29,282	△1.5
報告セグメント計	244,732	257,730	5.3
その他	23,319	23,963	2.8
セグメント計	268,051	281,693	5.1
事業セグメントに配分していない 収益及びセグメント間取引消去	△14,433	△14,757	—
合計	253,618	266,935	5.3

(注) 1. 販売金額には酒税を含んでおります。

2. 前連結会計年度までタカラバイオグループの「試薬」に含めていたmRNA製造用関連製品(研究用)等の売上高を、当第3四半期連結累計期間より「遺伝子医療」に加えております。本表の前第3四半期連結累計期間の実績は、当該変更を反映して組み替えております。

## (2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は240,709百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,503百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が19,848百万円減少し、受取手形及び売掛金が5,778百万円、商品及び製品が9,874百万円それぞれ増加したことによるものであります。固定資産は217,904百万円となり、前連結会計年度末に比べ25,649百万円増加いたしました。これは有形固定資産が建設仮勘定の増加などにより10,805百万円、無形固定資産がのれんの増加などにより19,402百万円それぞれ増加し、投資その他の資産が投資有価証券の減少などにより4,558百万円減少したことによるものであります。

以上の結果、総資産は458,614百万円となり、前連結会計年度末に比べ21,145百万円増加いたしました。

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は101,305百万円となり、前連結会計年度末に比べ20,647百万円増加いたしました。これは主に短期借入金が17,681百万円、コマーシャル・ペーパーが9,000百万円それぞれ増加し、1年内償還予定の社債が5,000百万円減少したことによるものであります。固定負債は73,078百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,266百万円減少いたしました。これは主に長期借入金が4,197百万円減少したことによるものであります。

以上の結果、負債合計は174,384百万円となり、前連結会計年度末に比べ17,381百万円増加いたしました。

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は284,229百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,764百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が7,340百万円増加し、その他有価証券評価差額金が5,048百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は50.7% (前連結会計年度末は52.3%) となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、最近の業績動向等を踏まえ、2024年5月10日に公表いたしました業績予想を修正しております。

前回予想(2024年5月10日公表)に対して、宝酒造は、売上高が下回ることに加え、容器包装品のコストアップや為替影響により原価率が上昇することで売上総利益が減少し、予想を下回る見通しです。

宝酒造インターナショナルグループは、売上高、売上総利益は予想を上回りますが、人件費や倉庫料など販売費及び一般管理費が増加することで、営業利益が予想を下回る見通しです。

タカラバイオグループについても、欧米のインフレの長期化や中国の経済不況の影響などを受け、ライフサイエンス研究開発市場の市況がさらに悪化し、製品やサービスの価格競争も激化していることから、売上高、営業利益が予想を下回る見通しです。

これにより、グループ全体で営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、前回予想を下回る見通しです。

事業セグメントの予想値の詳細につきましては、本日公表の「2025年3月期第3四半期決算短信補足資料」(PAGE 8/13~11/13)をご参照ください。

※本日(2025年2月13日)、当社の連結子会社であるタカラバイオ株式会社(コード番号 4974 東証プライム市場)も、2024年5月10日の決算短信で公表いたしました通期連結業績予想を修正しております。

## (通期連結業績予想)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想(A) (2024年5月10日公表)	百万円 362,000	百万円 25,700	百万円 26,300	百万円 17,200	円 銭 88.09
今回修正予想(B)	362,000	21,200	22,300	15,900	81.43
増減額(B-A)	0	△4,500	△4,000	△1,300	—
増減率(%)	0.0	△17.5	△15.2	△7.6	—
ご参考:前期実績 (2024年3月期)	339,372	22,242	23,336	16,176	82.09

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	95,085	75,237
受取手形及び売掛金	70,123	75,902
商品及び製品	61,834	71,709
仕掛品	1,659	2,260
原材料及び貯蔵品	7,558	8,230
その他	9,768	8,116
貸倒引当金	△817	△745
流動資産合計	245,213	240,709
固定資産		
有形固定資産	104,882	115,688
無形固定資産		
のれん	12,154	30,494
その他	6,181	7,243
無形固定資産合計	18,336	37,738
投資その他の資産		
投資有価証券	43,597	35,352
その他	25,502	29,188
貸倒引当金	△62	△62
投資その他の資産合計	69,036	64,478
固定資産合計	192,254	217,904
資産合計	437,468	458,614
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,315	24,866
短期借入金	10,008	27,690
1年内償還予定の社債	5,000	—
コマーシャル・ペーパー	—	9,000
未払酒税	8,174	9,210
未払費用	8,826	5,306
未払法人税等	2,600	2,885
引当金	3,950	2,438
その他	19,782	19,906
流動負債合計	80,657	101,305
固定負債		
社債	15,000	15,000
長期借入金	10,422	6,224
退職給付に係る負債	8,735	8,583
その他	42,187	43,270
固定負債合計	76,345	73,078
負債合計	157,003	174,384

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,226	13,226
資本剰余金	2,716	2,804
利益剰余金	169,909	177,250
自己株式	△2,103	△2,103
株主資本合計	183,749	191,177
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22,511	17,462
繰延ヘッジ損益	3	2
為替換算調整勘定	22,389	23,886
退職給付に係る調整累計額	12	120
その他の包括利益累計額合計	44,915	41,471
非支配株主持分	51,799	51,581
純資産合計	280,465	284,229
負債純資産合計	437,468	458,614



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	253,618	266,935
売上原価	169,224	179,411
売上総利益	84,394	87,523
販売費及び一般管理費	66,614	72,614
営業利益	17,779	14,909
営業外収益		
受取利息	294	686
受取配当金	927	912
その他	531	594
営業外収益合計	1,754	2,194
営業外費用		
支払利息	300	475
その他	412	562
営業外費用合計	713	1,037
経常利益	18,820	16,066
特別利益		
固定資産売却益	39	819
投資有価証券売却益	2,670	2,912
その他	14	75
特別利益合計	2,724	3,807
特別損失		
固定資産除売却損	203	260
減損損失	75	108
その他	—	28
特別損失合計	279	397
税金等調整前四半期純利益	21,265	19,476
法人税、住民税及び事業税	7,142	6,781
法人税等調整額	△641	△354
法人税等合計	6,501	6,427
四半期純利益	14,764	13,049
非支配株主に帰属する四半期純利益	827	46
親会社株主に帰属する四半期純利益	13,937	13,002

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純利益	14,764	13,049
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,003	△5,048
繰延ヘッジ損益	△190	△1
為替換算調整勘定	15,434	1,804
退職給付に係る調整額	157	128
その他の包括利益合計	19,404	△3,116
四半期包括利益	34,169	9,932
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	30,596	9,558
非支配株主に係る四半期包括利益	3,572	374

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

四半期連結財務諸表は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成しております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分（その他の包括利益に対する課税）に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。）第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前年四半期の四半期連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間（自2023年4月1日 至2023年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宝酒造	宝酒造イ ンターナ ショナル グループ	タカラバ イオグル ープ	計				
売上高								
外部顧客への売上高	96,963	117,061	29,733	243,757	9,860	253,618	—	253,618
セグメント間の内部 売上高又は振替高	656	317	0	974	13,458	14,433	△14,433	—
計	97,619	117,378	29,734	244,732	23,319	268,051	△14,433	253,618
セグメント利益	6,978	8,933	336	16,248	1,923	18,171	△392	17,779

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、貨物運送事業、ワイン輸入販売、不動産賃貸事業などであります。

2. セグメント利益の調整額△392百万円は、セグメント間取引消去40百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益△432百万円であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「タカラバイオグループ」セグメントにおいて、減損損失75百万円を計上しております。

## Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自2024年4月1日 至2024年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宝酒造	宝酒造インターナショナルグループ	タカラバイオグループ	計				
売上高								
外部顧客への売上高	94,422	133,034	29,281	256,738	10,197	266,935	—	266,935
セグメント間の内部 売上高又は振替高	708	282	0	991	13,766	14,757	△14,757	—
計	95,131	133,316	29,282	257,730	23,963	281,693	△14,757	266,935
セグメント利益又は損失(△)	5,350	9,372	△1,473	13,249	2,198	15,447	△537	14,909

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、貨物運送事業、ワイン輸入販売、不動産賃貸事業などであります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△537百万円は、セグメント間取引消去△18百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益△519百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「タカラバイオグループ」セグメントにおいて、減損損失108百万円を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「宝酒造インターナショナルグループ」セグメントにおいて、ドイツ・ミュンヘン近郊で食材卸売業を行うKagerer & Co. GmbHの出資持分90%を取得したことにより、のれんを計上しております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては、14,774百万円であります。なお、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	7,370百万円	7,523百万円
のれんの償却額	839	1,040

## (企業結合等関係)

## 取得による企業結合

当社の連結子会社である宝酒造インターナショナル株式会社(以下、「宝酒造インターナショナル」という。)は、2024年11月19日開催の同社取締役会において、ドイツ・ミュンヘン近郊で食材卸売業を行うKagerer & Co. GmbH(以下、「カーゲラー社」という。)の出資持分90%を取得することを決議し、2024年11月22日付で取得しました。

## 1. 企業結合の概要

## (1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 Kagerer &amp; Co. GmbH

事業の内容 魚介類および日本・アジア食材・調味料の輸入・販売業

## (2) 企業結合を行った主な理由

宝酒造インターナショナルグループでは、北米、欧州での日本食材卸の拠点拡大を推進しております。

今回、カーゲラー社を連結子会社とすることで、ドイツ市場全域における強固な事業基盤を構築し、加えて、同社が欧州各国へ展開している取引先ネットワークを活用することで、東欧・北欧など新規市場の開拓を加速し、ドイツを起点に日本食材卸事業の飛躍的な成長を実現するためであります。

(3) 企業結合日

2024年11月22日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする出資持分の取得

(5) 結合後企業の名称

企業結合後の名称の変更はありません。

(6) 取得した出資持分比率

90%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

宝酒造インターナショナルが現金を対価として、出資持分を取得したためであります。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

当第3四半期連結会計期間は貸借対照表のみを連結しており、当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に被取得企業の業績は含まれておりません。

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	18,005百万円
取得原価		18,005

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん金額

14,774百万円 (92,610千ユーロ)

なお、のれん金額は、当第3四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(2) 発生原因

主としてカーゲラー社がドイツ及び欧州で展開する事業によって期待される超過収益力であります。

(3) 償却方法及び償却期間

10年間にわたる均等償却

**独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書**

2025年2月13日

宝ホールディングス株式会社  
取締役会 御中有限責任監査法人トーマツ  
京都事務所指定有限責任社員 公認会計士 菱本 恵子  
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 辻 知美  
業務執行社員

## 監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている宝ホールディングス株式会社の2024年4月1日から2025年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2024年10月1日から2024年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2024年4月1日から2024年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

## 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、

職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。